

## 8 ソンドハイム

スティーヴン・ソンドハイム (Stephen Sondheim 1930 - )

米国のミュージカル作曲家・作詞家。少年時代にオスカー・ハマースタイン 2 世の知遇を得、大きな影響を受ける。マサチューセッツ州のウイリアムズカレッジで作曲を学んだあとミルトン・バビットに師事。学生時代から舞台作品を手がけ、1957 年《ウエストサイド物語》の作詞で成功。作曲作品としては《ローマで起こった奇妙な出来事》(1963)が最初の成功作。以来精力的に作品発表を続け、これまでにトニー賞を 8 回、グラミー賞を 8 回受賞のほかアカデミー賞、ピューリッツァー賞を含む数々の賞を受賞。日本では、多くのミュージカルと比べて音楽がやや「難しい」こと、ダンスの要素がほとんどないこと、などから長い間「知る人ぞ知る」存在にとどまっていたが、近年では宮本亜門が積極的に上演し、また代表作《スウィーニー・トッド》がティム・バートン監督ジョニー・デップ主演で映画化されたりしたことによって知名度も高まっている。



### ■ソンドハイムの主なミュージカル

ソンドハイムの扱う題材には社会風刺的な性格の強いものが多く、いわゆるラブ・コメディは少ない。ダンス・シーンも少なく、一般的なミュージカルのイメージから外れた独自の領域を作っている。音楽にはジャズやポピュラー音楽の要素は少なく、どちらかといえばクラシカルで新古典主義的な乾いた作風。ミニマル・ミュージック的な要素もある。細かいリズムや大胆な跳躍など確実な歌唱技術を要求するものが多い。

#### カンパニー Company 1970

ジョージ・ファース脚本、ハル・プリンス演出。35 歳の独身男ボビーの誕生祝いに沢山の友人たちが訪れ、結婚を勧める。だがその彼ら自身は、必ずしも幸福な結婚生活を営んでいるわけではなかった。1971 年トニー賞 6 部門受賞 (最優秀作品、作詩、作曲他) 。2006 年の新演出では、キャストが楽器も演奏することが求められ、話題となった。

#### 太平洋序曲 Pacific Overtures 1976

ジョン・ワイドマン脚本、ハル・プリンス演出。1853 年ペリー提督の浦賀来航をきっかけに日本が開国し、その後様々な出来事を経て「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われる経済大国に成長するまでの物語を、ジョン万次郎と 1 人の幕府下級役人にスポットライトを当てて描く。1976 年トニー賞 2 部門受賞

#### スウィーニー・トッド Sweeney Todd 1979

ヒュー・ウィーラー脚本、ハル・プリンス演出。19 世紀半ば、ヴィクトリア朝時代、産業革命ですすに汚れたロンドン。妻を陵辱され娘を誘拐された床屋スウィーニー・トッドが、パイ屋の夫人と協力して復讐を果し娘を取り返そうとするうちに次々と殺人を犯していくミュージカル・スリラー。1979 年トニー賞 7 部門受賞 (最優秀作品、作詩・作曲他) 2007 年映画化。

#### ジョージの恋人 Sunday in the Park with George 1984

ジェイムス・ラパイン脚本および演出。点描という独得の画法で知られるフランス印象派の画家ジョルジュ・スーラ (=ジョージ)。彼の代表作の一つである「グラン・ジャットの日曜日」を完成するまでの過程を恋人ドットとの別れも絡めて描く第 1 幕と、彼のひ孫に当たる若き画家ジョージが現代の美術界の中で苦悩しながらも生きる道を探し求める決意を固めるまでを描く第 2 幕から成る。1984 年トニー賞 2 部門、1985 年ピューリッツァー賞受賞。

#### 森の中へ (イントウ・ザ・ウッズ) Into the Woods 1987

ジェイムス・ラパイン脚本および演出。「シンデレラ」「ジャックと豆の木」「赤ずきん」に「ラプンツェル」といった童話を下敷きに、シニカルな視点から新しいストーリーを組み上げた作品。シンデレラ、ジャック、赤ずきんはそれぞれの望みをかなえるために森の中へ入る。さまざまな出来事が起こるうちに、それぞれの話が絡み合っていく。1988 年トニー賞 3 部門受賞 (作詩・作曲他)。2014 年に映画化。